



昨年5月19日、新聞紙上で紹介された緑のふるさと協力隊・千葉遙加さん。「大自然の中で、自分の進路や将来についてゆっくりと考えたいと思う。毎月1回連載する広報紙のコラムも楽しみ」と語っている。

皆さんこんにちは。
「風ノハルカ」を、皆さんの元へお届けするのも最後となりました。今まで長い文章をほとんど書いたことがなく、毎月、四苦八苦しながら書いていたこの原稿も、これで最後だと思うと少し寂しい気がします。

書き始めたころは、自分の文章が町全体に行き渡るなんて信じられないかたし、風ノハルカというタイトルも正直、少し恥ずかしかったです。でも、書き続けていながら、町のあちこちで「あなた、風ノハルカさん?」「いつも読んでるよ」と、たくさんの人から声をかけていただくようになり、本当にうれしく思つたのを覚えています。

初めて訪れた新緑が映える町

4月中旬、大井川鐵道に揺られて、わたしはこの町を訪れました。周りを見渡せば広がる山々、大井川、もえぎ色の茶畠…。それまで住んでいた柏市とはまったく違う景色でした。すべてが新鮮に感じられました。

来町して初めての週末、川根温泉で開かれた「川根茶の日」記念イベントに参加しました。わたしはこのイベントで、茶娘に扮してお茶の接待をしました。テレビでしか見たことのない「茶娘」にな

活動に幅が出てきた初夏から夏
6月に入ると、ふるさと協力隊の活動にも幅が出てきました。特に、子育て支援や乳幼児検診のお手伝いは楽しかった活動の一つです。子育て支援のお手伝いは、11

新茶時期の本町。1年で一番活気ある季節です。わたしもこの町の一人として、忙しい日々が続きました。この時期は、ほとんど地名にある共同茶工場「かわね山廻苑」さんのお手伝いをしていました。お茶に関する道具や機械など、初めて見るものばかりです。大量の生葉相手の荷受けや袋持ちなど、体力勝負が続きました。5月から6月ごろの自分の写真を見ると、骨が浮いているのがはつきりと分かれます。これを毎年やっている、この町の人は本当にすごい。あらためてそう思います。いろんな壁にぶつかり始めたのも、このころだつたように思います。

活動に幅が出てきた初夏から夏
7月の下旬ごろから、「徳山の盆踊（祭典・8月15日）」の練習に参加しました。わたしは、小・中学

祭り囃子が聞こえる
は、今までなかつた気がします。

「いつも読んでるよ」という声が本当にうれしかったことを覚えています

れるなんて。

生まれて初めて、わたしが新聞に載ったのも、このイベントの記事でした。「今日の新聞にはるかちゃんが載つてたね」と声をかけられたときは、うれしいやら、恥ずかしいやら、照れくさいやら…。

活気と疲労の新茶時期

月くらいまで参加させてもらつたのですが「人の子は育つのが早い」とはよく言つたもの。最初はほとんど言葉を発しなかつた子が、いつの間にかハッキリと話せるようになつてしたり、知らないうちに立つことができるようになつてたりと、短い付き合いの中にも、その成長ぶりを感じることができます。妊婦さんや赤ん坊を見ていると、一年間という期間の長さを感じました。

役場の保健師さんや栄養士さんは、町内の赤ちゃんのことを、「どこに住んでる誰の何番目の子ども」というようにしっかりと把握しています。こまめに実施されたり家庭訪問などにより、温かく子どもたちを見守ることができています。そんなところも、この町ならではの「すぐくすてきなところ」だと思いました。

夏場は日差しが照りつける中、主に茶園の草取り作業に従事していました。毎日、着ているものがびつしょり濡れるほど汗をかきました。

千葉県柏市から

緑のふるさと協力隊員

として派遣され、

1年間、川根本町で暮らした

千葉遙加さん

川の水がぬるみ、木々の花が

ほころび始めるこの町で、

ふたたび同じ季節を迎えた

彼女の胸に、

今、去来するものは…

遙加さん自身がこの1年をふり返り

明日へと思いを馳せる

風ノハルカ【最終話】

遙加さんがあなたに宛てた、

1通のラブ・レター

風ノハルカ 最終話 ラブ・レター
LoveLetter